

国際会議の札幌誘致へ組合

国際会議や展示会、報奨・研修旅行など「MICE(マイス)」の札幌への誘致に向けて、札幌の旅行会社など9社が共同で「さつぽろMICE戦略推進有限責任事業組合」を設立した。

地元業者ならではの情報の収集・発信を行うほか、道内観光のPRにも力を入れ、独自性のある誘致活動を展開する考えだ。

事業組合は、国際会議運営のイー・シー・プロ(札幌)やJT B北海道(同)など道内6社と、全国で大型会議を手がけるコングレ(東京)と日本コンベンションサービス(同)など道

旅行業など道内外9社

外3社で組織。地域を知る道内企業と知名度がある道外大手が手を組むことで、誘致の加速を目指す。

国際会議などの参加者は一般の旅行者より滞在日数が長い上に、会議前後に観光地に足を運ぶ副次効果への期待もあり、誘致競争は激しくなっている。日本政府観光局(JNTO)によると、2015年に札幌市内で開かれた国際会議は107件で全国9位。事業組合の久松伸一

職務執行者は「札幌開催でも道外企業が誘致を主導することが多かった」と話す。

事業組合は、11月に報奨・研修ツアーなどを手掛ける香港の旅行会社など30社を道内に招待。6泊7日の日程で札幌市や胆振管内洞爺湖町などを巡り、ツアー商品開発の参考にしよう。年明け以降も誘致方法を研究するセミナーの開催などを計画している。

札幌では20年代半ばに大規模会議場を整備する計画もある。久松氏は「行政とも情報共有しながら、誘致活動を進めていきたい」と話している。

情報収集、観光PRにも力